

大規模建設事業事前評価（整肢療護園等改修事業）に寄せられた意見について

寄せられた意見	県の考え方
<p>評価表における背景や県民ニーズについて、また、全体計画のメリットについては、その通りだと思ふことばかりであるが、高等技術専門学校や宮西ビル入居団体が移転して来ることは、本来の整肢療護園の改修する背景やニーズとは違い、経済的なことが優先されている。</p> <p>これらの福祉に関係しない団体が入ることにより、プライバシーに関係することや予断や偏見によるトラブルが起きる可能性が高まるのではないか。</p> <p>空きスペースを有効に使おうとするところはわかるが、全てを福祉に関係するものにするなど、入居団体を厳選する必要がある。</p>	<p>プライバシーに関係することや予断や偏見によるトラブルが起きる可能性が高まるという御意見につきましては、福祉相談機関が入る管理棟と、高等技術専門学校や宮西ビル入居団体等が入る教育棟は隣接する建物であっても出入口を分け、さらに往来が簡単にはできにくくすることで、プライバシーの保護に配慮しております。</p> <p>また、松山高等技術専門校の移転につきましては、管理棟の相談機関との連携により障害者及び女性への職業訓練による雇用・自立促進を効率的に実施できることなどのメリットもあると考えており、経済的側面のみを重視したものではないことを御理解願います。</p> <p>さらに、宮西ビル入居団体を教育棟に移転する理由としては、宮西ビルの老朽化が著しく、毎年多額の修繕経費が必要となっており、ビルの維持管理が困難になってきていること、入居団体が公益性の高い団体であること、県財政が非常に厳しい中で、土地の売却により収入を確保しなければならない状況にあることについても是非とも御理解願います。</p> <p>なお、教育棟への入居団体は、福祉団体である県母子寡婦福祉連合会の他、その多くが保健衛生関係団体であり、予断や偏見によるトラブルの可能性はないものと考えております。</p>